



技術史教育

第133号

2023.1.31

Electronic Journal for History of Technology Education

第133号 目次

日本技術史教育学会2022年度全国大会(厚木)開催報告	岡崎 心仁 (1)
日本技術史教育学会関西支部2022年度総会・研究発表講演会案内	吉正 信之 (2)
論文投稿規定改定に関して・功績賞・業績賞候補者募集	(3)
2023年度総会・研究発表講演会講演開催に関してのお知らせ・編集後記	(4)

【特別大会報告】

日本技術史教育学会 2022年度全国大会(厚木)開催報告

2022年度大会実行委員会

実行委員長 岡崎 心仁 (京奈川工大)

本大会はコロナ禍の世情をふみつつ、会場とオンラインを併用したハイブリッド方式(オンライン、オンデマンド会場)で開催し、運営面で至らぬ点もありましたが、結果として、特別講演者を含む500名が会場へ来場、8割がオンライン参加となし、今言ふ迄の発表がありました。各発表で活発な議論が交わされ、実施形態に関係なく本学会諸氏の研究に対する志と情熱の高さを感ずることができました(ここでは、発表内容について記していきたいと思っております)。

今回、特別講演は日本機械学会技術と社会の部門長を務め、早稲田大学教育工學部に所属されてきた左藤智明先生に「技術遺産の継承と『おびき舟』」と題して発表していただき、2枚のポスター2台に自作の論文を併せて受講者に臨場感あるプレゼンテーション像を見せる工夫などを示し、頂きました。技術遺産をモチーフとして投影する手法は、技術史教育に大いに刺激すると思われまふ。なお、左藤先生は本大会終了後に当学会へ入会されました。今後、学会でのご活躍を期待します。

会場発表の発表は次の通りになります。まず、午前9時「技術史・技術文化史」のセッションにおいて、「いたゞ野大地の用水門塔の歴史と考-明石川から湧き出す林崎掘割-」(岸田 晴氏)と題する発表が始まり、「ハンニハ」家の変遷-明治後期-の2」(山崎順氏)、石川門(ギリ考 I 中国の石材、ギリ(腰鉄)をモチーフにして)(佐々木素氏)の3件の発表と活発な質疑応答がなされました。このセッションでは、第1題が事前録画(第2題はオンライン、第3題が会場での発表

と3種の形態を実践し、今後の学会実施方法に示唆を与えることができたと思います。

昼食を来賓者一同は近隣の中華料理店へ赴き、雑談を交わし、懇話会をしのぎ、束の間の交流を深めました。このセッションで特別講演の「《工業誌『技術』の発展と『おびき舟』について》(岡力也氏)、「『おびき舟』の業績(第2報)(吉田 泉氏)」、「『おびき舟』の「ヴァン・ゲル」-録音技術と音響学との関係について-(澤澤 孝氏)、「木質ペレットを用いた農業用乾燥機の開発」(高峰 誠)が続いて《技術教育と工業教育》のセッションで「学生フォーミュラに見る工学教育の課題」(等々利)、「フータンの技術教育の変遷と課題」(第1報-フータンの20年にわたる技術支援、伊点からみた村の鍛冶屋の実現計画(4)-「白土一 池)、「学生時代お世になった計器」(吉田喜一氏)と計6題の発表と活発な議論がなされました。

発表数は多くありませうが、予定の専門領域に限定されない発表は、質疑の喚びに富み興味深いものがあります。また、会場を準備して会員諸氏を迎えておくことができ、ことは良かったと思っております。オンラインと会場での発表に加え、事前録画による発表を取り入れ、今後の学会開催に示唆を与えたと思っております。この2022年度に全国大会を開催した際には32名の参加者がありましたので、多くの方が参加する大会の開催が課題であるかと思っております。最後に、全国大会が無事開催することができ、実行委員一同大変喜ばしく、皆様のご協力に感謝の報告と致します。

2023年1月